

重なり合う利益の調和と拡大をめざします

丸井グループを取り巻くステークホルダーは多岐にわたります。「共創価値」経営においては、その中心にお客さまが位置づけられますが、ほかにも株主・投資家の皆さまをはじめ、お取引先さま、地域・社会の皆さま、従業員などによって当社グループの事業は支えられています。

こうしたステークホルダー間の利益は、しばしば相反関係にあるようにいわれることがあります。相互に重なり合う利益や価値も少なくありません。私たちは、その重なり合う部分こそが真の企業価値であり、これを「共創価値」経営によって調和させ、また拡大させていくことが企業価値の向上につながると確信しています。

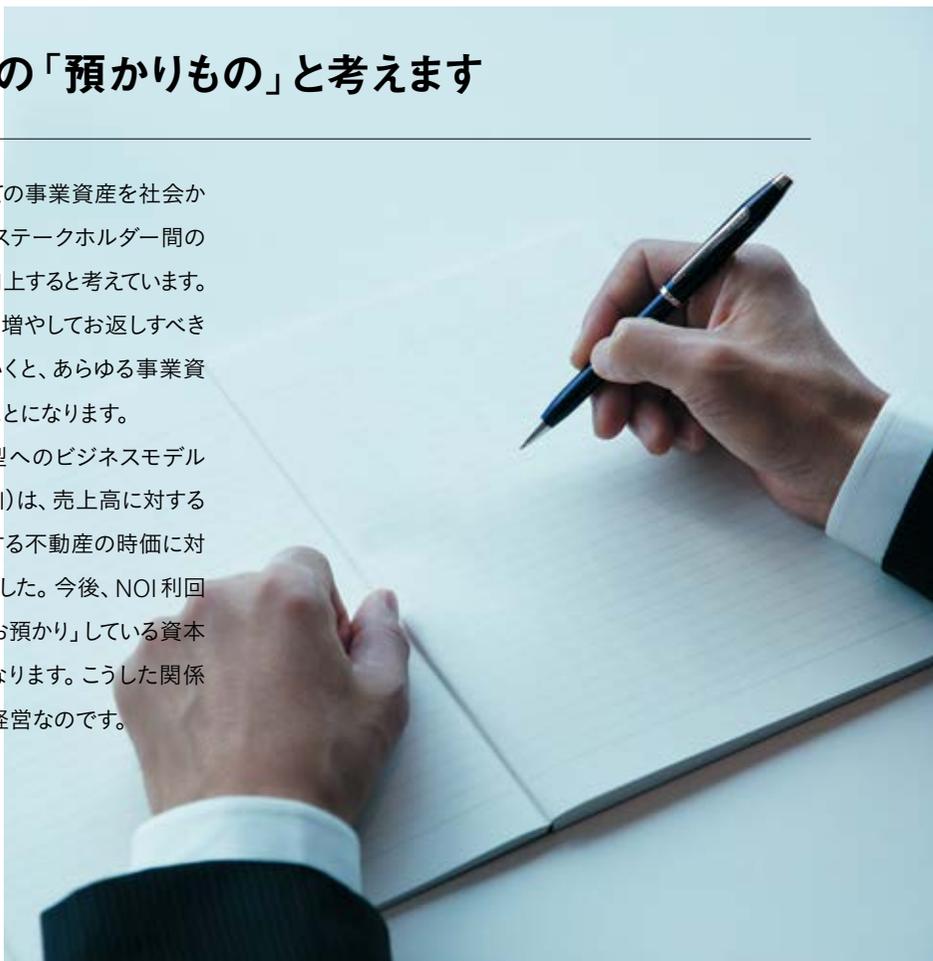
企業価値 = すべてのステークホルダーの「利益」の重なり合う部分

重なり合う部分の拡大 = 企業価値の向上

すべては社会からの「預かりもの」と考えます

「共創価値」経営においては、すべての事業資産を社会からの「預かりもの」と考えることで、ステークホルダー間の利益の調和がすすみ、企業価値が向上すると考えています。「お預かり」したものは、有効活用し増やしてお返しすべきです。この発想で経営を推進していくと、あらゆる事業資産の価値が相乗的に高まっていくこととなります。

例えば、百貨店型から不動産型へのビジネスモデル転換により、私たちの重要指標(KPI)は、売上高に対する利益率から、社会から「お預かり」する不動産の時価に対する利益率(NOI利回り)に変わりました。今後、NOI利回りが高まれば、結果的に株主から「お預かり」している資本の利回り(ROE)も向上することとなります。こうした関係性を高めていくことが「共創価値」経営なのです。



共創の対話は長期の時間軸です

「共創価値」経営においては、ステークホルダーとの、あるいはステークホルダー間の対話がとても重要な要素になりますが、これは相互に重なり合う利益を調和させる役割を果たします。しかもその対話は、あくまでも将来を見据えた長期の時間軸でおこなわれなければなりません。

同時に私たちがなすべきことは、ステークホルダー間で重なり合う利益を調和させるだけでなく、これをさらに拡

大させていくためのビジネスの仕組みやすすめ方を常に創造していくことだと考えています。当社グループの従業員一人ひとりには、創業以来、刻み込まれている「革新のDNA」があります。変化をいとわず、新たなことに挑戦し続ける精神こそが、これからも「共創価値」経営を強力に押しすすめる力になるはずです。

丸井グループが考える企業価値

